Aichi Cancer Center News

がんセンターNEWS

Aichi Cancer Center News

第43号

平成25年1月発行

発 行
愛知県がんセンター
Tel. 052-762-6111㈹

糖尿病コンサルト外来の新設

入院中の血糖管理をより安全かつ良好なものとすることを目的に、平成24年10月に糖尿病コンサルト外来が新設されました。

平成24年10月に糖尿病コンサルト外来が新設されました。

生活習慣の変化により糖尿病は増加傾向にあり、日本では成人の10%以上が糖尿病であると言われています。糖尿病や耐糖能異常（糖尿病予備軍）を有しているがん患者さんでは、腫瘍そのものや治療に伴うストレス、抗がん剤などの薬剤で、糖尿病が悪化しやすい状態にあります。また手術療法においては、点滴や食事量の変化、腫瘍および血糖調節に関わる臓器の切除により、血糖値が大きく変動します。

糖尿病コンサルト外来では、当院でがん治療中または治療開始される患者さんを対象として、より安全にがん治療を行うために、血糖管理方法や糖尿病治療方針をご提案させて頂きます。患者さんにはわかりやすく丁寧な説明を心がけて参ります。

なお当外来は定期通院には対応していないため、糖尿病定期治療についてはかかりつけ医などで行って頂くことになることを、予めご了承ください。

≪診療時間≫
月・木曜日（祝日・年末年始を除く）
13時30分～16時30分
≪主な対象者≫
がん治療の目的で当院へ入院予定の方、入院中の方
≪診療内容≫
当院主治医からの依頼に対して、主に入院中の血糖管理方法や糖尿病治療方針を具体的に提案致します

新任医師の紹介

呼吸器外科部
坂倉 範昭

10月1日付けで愛知県がんセンター愛知病院より着任いたしました。胸部悪性腫瘍の外科治療を専門としております。幅広い視点から病態・治療を考え、困難な病態でもあきらめずに工夫し最善の対処を見いだすことを心がけております。どうぞよろしくお願いいたします。

呼吸器外科部
黒田 浩章

慶応病院・がん研有明病院の研修を経て平塚市民病院より赴任してまいりました。肺癌をはじめ胸部悪性腫瘍に対する外科治療を専門にしています。胸腔鏡手術(侵襲の少ない手術)や縮小手術(肺を温存する手術)から拡大手術まで、最善の治療を提供できるよう努力して参ります。

愛知県

患者さんへ「心あるサービス」を届けるために　～院内教育研修～

中央病院 教育・研修委員会

がんセンター中央病院では、航空会社のフジドリームエアラインズ（FDA）で客室乗務員の教育を担当している勝又裕加さんをお招きして、患者さんの心に届く話し方や接し方などのポイントを学ぶ接遇研修を11月20日に行いました。

制服を身に着け清楚で凛と引き締まった身だしなみとおだやかな笑顔に大変好印象を受けました。客室乗務員はお客様の安全を守る厳しい顔と快適なサービスを提供する顔の2つの側面を持っており、非常に厳しい教育・訓練が実施されていることも理解できました。

研修参加者は医師・看護師・薬剤師・検査技師・事務・委託業者など様々な職種のスタッフ130名で、演習あり筆記ありディスカッションありと参加者全員が講義に集中している様子が感じられとても有意義な時間になりました。

私たちが普段提供しているサービスは①形がなく量が一定ではない。②生産と消費が同時に行われる。③結果だけでなくプロセスが重要。④顧客との共同生産という特徴を持っており、相手に与える第一印象は、服装や表情、話し方で決まります。つまり出会いの瞬間でサービスの価値が決まるということです。多くの病院の中でがんセンター中央病院を選んでくださった患者さんに、よい医療を受けたと感じてもらえるよう全職種一丸となって心のこもったサービスを提供していくことを今後も継続していきます。

学んだ!体験した!がん研究の最先端
「研究所ってどんなことをしているの？」

各種イベントで地域の皆様と交流しました

愛知県がんセンター研究所では、広報活動の一環として、一般の皆さんを対象とした催しを開催しています。平成24年8月3日には、東海地域の高校生を対象とした「高校生向け基礎実験体験講座」を開催しました。今回は「遺伝子増幅法でがんを診断する」というテーマのもと、白血病細胞から「RNA」（リボ核酸、遺伝物質の一種）を抽出し、白血病細胞に特有の遺伝子変化を検出する実験を体験していただきました。男子2名、女子14名の計16名が参加され、実際に手を動かし、また研究者と交流することで、充実した1日になりました。

また9月1日に開かれたがんセンター公開講座にあわせて、研究所の研究内容を紹介する「パネル展示」、および研究員の案内で少人数のグループごとに研究所内部を見学する「研究所ツアー」も開催しました。研究所ツアーには計75名の皆さんが参加され、「本で読んだり写真で見たりするよりずっとわかりやすかった」「難しいことをやさしく解説してくれて良かった」など、好評をいただきました。

がんセンター研究所は、これからも地域住民の皆さんにがん研究に関連した様々な情報を発信していきます。こうした催しの案内は愛知県がんセンターのホームページに随時掲載しますので、興味のある方は是非ご覧ください。

高校生向け基礎実験体験講座当日の様子

患者満足度調査から見えること　～今後の改善に向けて～

がんセンター中央病院では、患者さんにより快適なサービスを提供するため、外来患者さんや入院患者さんのご協力をいただき、平成24年11月に「患者満足度調査」を実施しました。調査結果から当院に対する満足度合いや評価などを把握し、そこから出た問題点を検討し、病院全体で取り組み改善に努めてまいります。

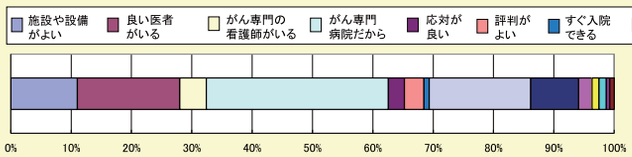
中央病院　患者サービス委員長

入院部門

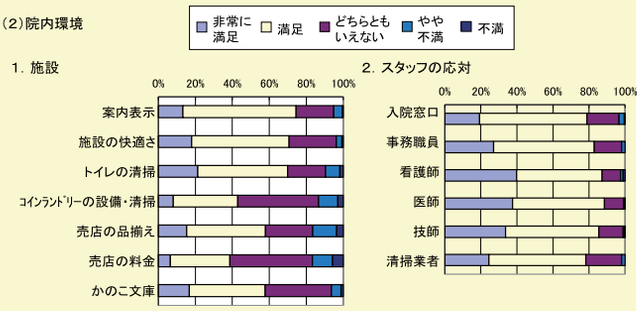
総合評価　平均　88点（100点満点中）

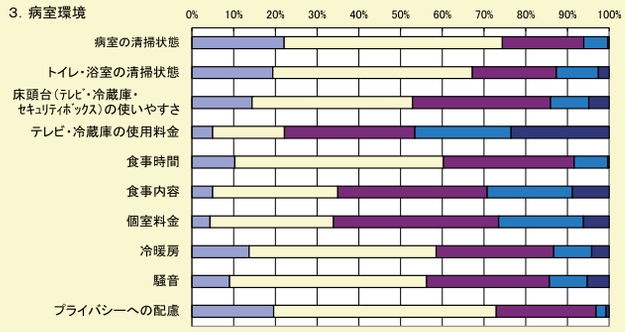
回答者数：入院患者 278名
調査期間：平成24年11月9日～11日

（1）当院の選択理由

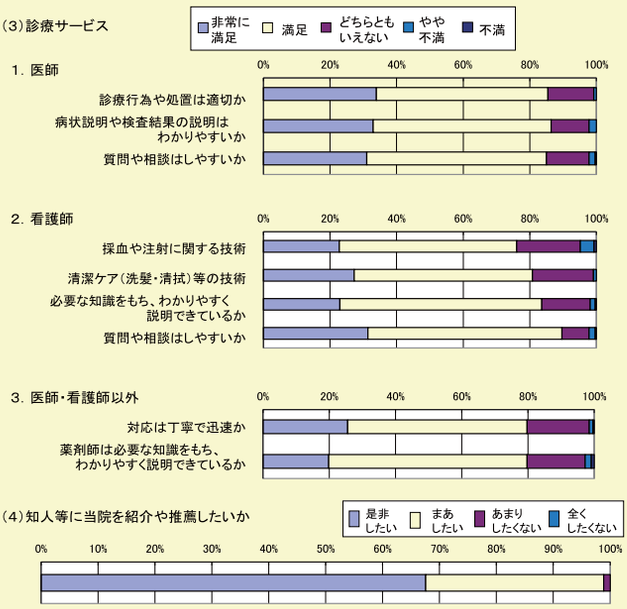


（2）院内環境





（3）診療サービス



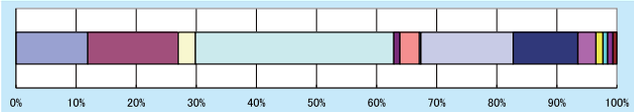
（4）知人等に当院を紹介や推薦したいか

外来部門

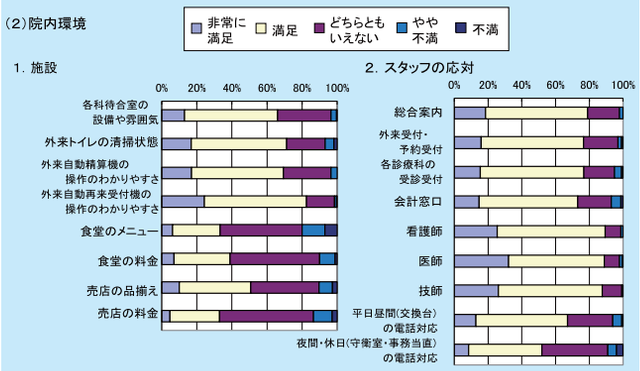
総合評価　平均　84点（100点満点中）

回答者数：外来患者 338名
調査期間：平成24年11月9日～11日

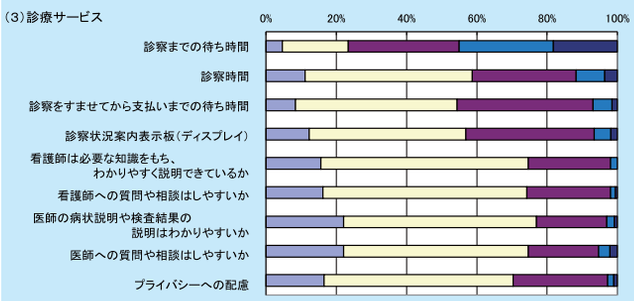
（1）当院の選択理由



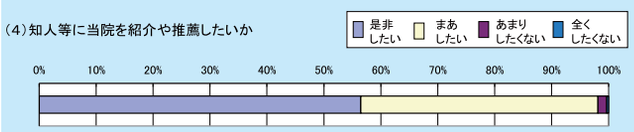
（2）院内環境



（3）診療サービス



（4）知人等に当院を紹介や推薦したいか



アンケート用紙（入院用）

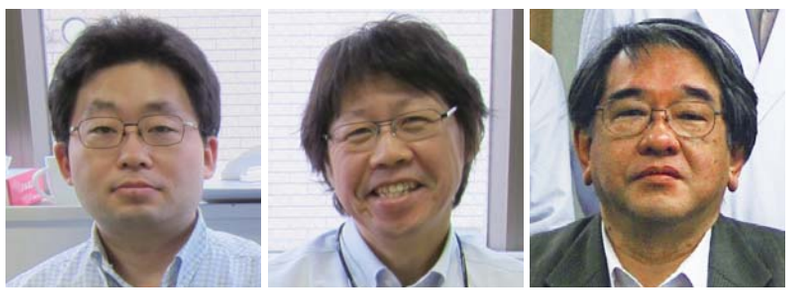
アンケート用紙（外来用）

※ この結果は中央病院ホームページでも公開しています。

がん細胞の転移のしくみにせまる

研究所～分子病態学部　佐久間圭一朗、青木正博～

愛知県がんセンター研究所･分子病態学部では、がんの転移を制御する薬の開発を目指して研究をおこなっています。その成果の一部が、昨年9月の読売新聞に掲載されました。この成果は、愛知医科大学の神奈木玲児客員教授（前分子病態学部長）との共同研究によるものです。



佐久間主任研究員（左）、青木部長（中）、神奈木前部長（右）

がん細胞の転移を飛行機のフライトに例えると、がん細胞という飛行機は、上皮間葉転換と呼ばれる現象を強力なエンジンとして、遠くの臓器へと飛んで行きます。一方、がん細胞を覆うシアリルルイス糖鎖と呼ばれる物質は、車輪としてがん細胞を目的地へ着陸させます。私たちは、このエンジンと車輪が、上皮成長因子という物質を使って、共通の工場で製造されることを見つけました。この工場は常に稼働しているわけではなく、特別な状況でのみ稼働し、がん細胞を転移に駆り立てるようです。この工場の生産ラインを薬で停止できれば、がん細胞は転移に必要な部品をふたつ同時に失うことになります。私たちは、そのような薬の開発を目指して研究を続けています。

がん細胞転移 解明の糸口

「成長因子」関与確認

県がんセンター研究所

抑制剤開発に期待

東海の医療

県がんセンター研究所（名古屋市千種区）は、がん転移のメカニズムのうち、がん細胞が移動しやすくなる「上皮間葉転換」が起き、がん細胞が血管内で止まるために必要な「シアリルルイス糖鎖」を備えるという二つのステップが、上皮成長因子というたんぱく質の関与で同時に起こることを、大腸がんを対象とした研究で発見した。転移しやすいがん細胞発生の仕組みを解明する糸口になると期待されている。（千田龍彦）

発見したのは、同研究所分子病態学部の佐久間圭一朗主任研究員、青木正博部長と、愛知医科大学先端医学研究センターの神奈木玲児博士の共同研究グループ。札幌市内で19日から開かれる第71回日本癌学会学術総会で発表する。

最初にできたがんの細胞が、がん組織を離れて血管を移動し、別の臓器へ広がっていく転移は、がん根治を困難にする最大の障壁だが、転移のメカニズムは複雑で、未解明の部分が多い。

今回の研究の対象となった上皮間葉転換とは、がん細胞が動きやすくなる現象で、血管を出入りしたり、臓器に浸潤したりすることができるようになる。シアリルルイス糖鎖は血液中のがん細胞が血管壁に着地するための足にあたり、着地したがん細胞が血管から臓器に入り、転移がんとなる。

佐久間さんによると、シャーレの中で培養した大腸がん細胞に上皮成長因子の試薬を与え、細胞の栄養分である血清は与えなかったところ、これまで上皮成長因子との関係が示唆されていた上皮間葉転換だけでなく、シアリルルイス糖鎖もつくられていた。

比較のため、患者から摘出された大腸がんの検体を調べると、がん組織の末端部分で、正常細胞と接している部分で、上皮間葉転換とシアリルルイス糖鎖の双方が備わり、転移準備が完了したがん細胞が見つかった。

上皮成長因子は正常細胞のどちらからも分泌される。また、増殖の早いがん組織では、しばしば血液が不足し、栄養や酸素が不足しがちになる。

佐久間さんは「そのような環境が、がん細胞にシャーレの中と同じような変化を引き起こしている可能性がある」という。

佐久間さんは「今回の発見をきっかけに転移の分子メカニズムを解明し、それらの分子を標的とした転移抑制剤を開発したい」と話している。

平成24年9月13日 読売新聞朝刊「東海の医療」
（転載については読売新聞社から許可を得ています。）

◆スタッフの紹介
患者さんのためにがんばります！

中央病院～薬剤部～

平成24年4月、薬学教育が6年制になって初めての薬剤師として、井口幸子技師が当院薬剤部に入りました。

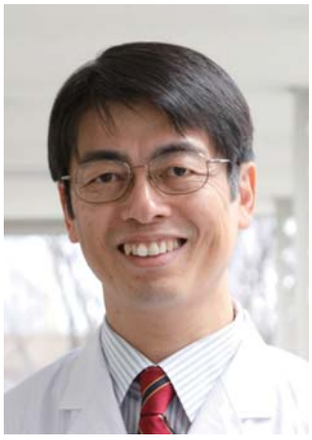
薬学教育6年制は、従前、研究室中心で学究的な面が強かった薬学教育を改革し、医療人としての薬剤師を養成することを目的として改正されました。これまでの薬学課程に臨床的な課程を大幅に加え、5年次には病院や薬局での臨床研修制度を取り入れて実践的な教育が行われています。

井口技師は、これまでに薬剤部の基礎的な業務を修得し、今では先輩の薬剤師の指導を受けながら病棟活動を始めています。

今後、患者さんや他のスタッフの皆さんのご指導をいただきながら、チーム医療の一員としてがんばりますので、よろしくお願いいたします。

悪性中皮腫の原因遺伝子の解明が進んでいます

研究所～分子腫瘍学部～



分子腫瘍学部長
関戸 好孝

アスベスト曝露で発症する悪性中皮腫が近年、日本において増加しています。最近、BAP1とよばれる遺伝子が約25%の悪性中皮腫において異常を来し、不活性化していることが報告されました。当部で樹立した中皮腫細胞株で検討したところ、やはりBAP1遺伝子の異常が生じていることが明らかになりました。野生型（正常型）のBAP1は細胞核に局在しますが、変異型（不活性型）のBAP1は細胞核にとどまることができません（図1）。さらに、悪性中皮腫細胞に正常のBAP1遺伝子を導入すると細胞の増殖を抑えました（図2）。このように、BAP1遺伝子は悪性中皮腫のがん抑制遺伝子であり、BAP1の不活性化が中皮腫の発がんの原因の一つであることが明らかになりました。BAP1遺伝子の機能は他の様々な遺伝子の発現調節や傷ついたDNAの修復に係わることが言われています。私たちは、BAP1遺伝子異常をもとに、悪性中皮腫に対する新たな診断法・治療法につながるよう、さらに研究を進めていきたいと考えています。

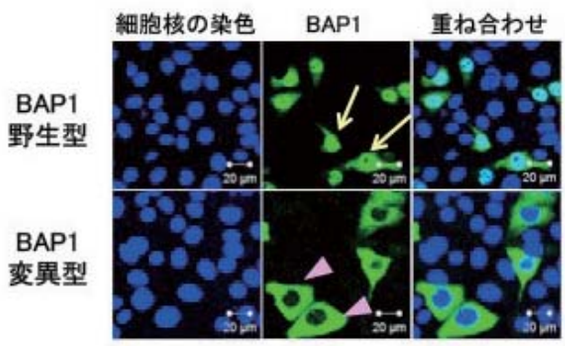


図1　野生型BAP1は細胞核に局在し、がん抑制分子として機能します（→）。
一方、変異型 BAP1は核に局在することができず、細胞質にとどまります（△）。

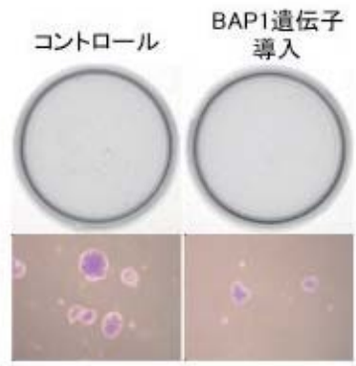
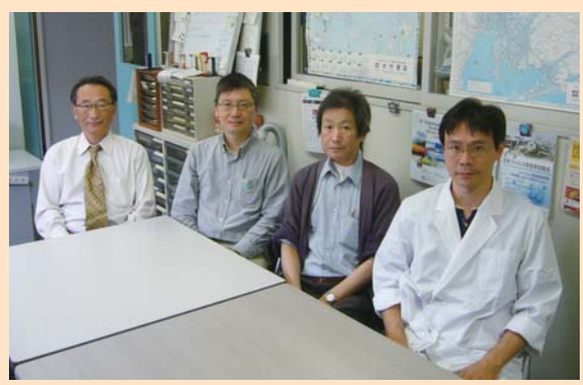


図2　野生型BAP1は中皮腫細胞の増殖を抑制します（右）。

◆研究員の紹介　研究所～腫瘍ウィルス学部～

腫瘍ウイルス学部ではヒト癌ウイルスであるEBウイルス（EBV）の研究を行っています。EBVが関与する癌にはバーキットリンパ腫、上咽頭癌、NK/T細胞リンパ腫などがあり、また胃癌の約7%がEBV陽性癌であることが知られています。癌の発症や進展にウイルスがどのように関わるのかを明らかにし、それに基づいた治療法の提案や開発を目指しています。



左から：鶴見達也部長、神田輝室長、中洲章主任研究員、村田貴之研究員

がん漢方　～古くて新しい漢方によるがん治療～

中央病院～循環器科部～

循環器科部長
波多野　潔

がん治療では手術、抗がん剤、放射線治療が基本治療です。しかし、様々な理由で、これら治療が行えない場合の代替療法としてがん漢方が注目されています。四千年の歴史をもつ漢方が、がん治療という現代医学で最もホットな局面の一つに歴史的には予想もできなかったような形で貢献し始めています。現在エビデンスが乏しいので、がん漢方に関する私の経験に基づく私見を記します。

1) 漢方は疲労、冷え、しびれ、便秘、下痢、むくみ、咳など、癌や癌治療に伴う現代医学では効きにくい諸症状の改善に有効。

2) がんとの共存状態を維持し、元気な状態での生存期間の延長は期待できる。

3) がん再発、転移の予防には、かなり効果がある。

4) 漢方による癌の根治はあり得るが、難しい。

漢方薬と現代医学との併用は可能で相互的に良い方向に作用する。漢方薬はがん治療に大きな悪影響を及ぼさないので、気軽に漢方治療を受けられたら良いように思います。ご希望の方は循環器科にご相談ください。

◆診療医の紹介　中央病院～呼吸器外科部～

呼吸器外科は4名のスタッフ（+4名のレジデント）で診療しております。主に肺がんや縦隔腫瘍（胸の中のできもの一般）が対象です。進行がんに対しては内科･放射線治療科と協力し集学的治療を、早期がんに対しては積極的に低侵襲手術（胸腔鏡手術や区域切除など）を行っております。特に胸腔鏡手術に関しては肺がんの標準的な手術として重点的にレベルアップを図り、そのためのスタッフも増員致しました。皆で力を合わせて、患者さんに安心･安全な医療を提供してまいりたいと存じます。どうぞ、宜しくお願い致します。

前列左から　黒田浩章医長･坂尾幸則部長･宇佐美範恭医長･坂倉範昭医長
後列左から　小林祥久医師･千葉眞人医師･富沢健二医師･森俊輔医師

手術待ち日数が短くなりました

中央病院～消化器外科部～

消化器外科部長

清水　泰博

消化器外科部は4診療グループ（食道、胃、大腸、肝胆膵）の構成で、スタッフ11名とレジデント6名の総勢17名で消化器がん全般の外科診療を行っております。昨年は826例の手術（当院の手術件数の約35%）を行い、その内訳は食道75例、胃224例、大腸374例、肝胆膵153例でした。手術方法や術前･術後の抗がん剤の使用に関しても、最新の知見を積極的に導入して外科治療に取り組んでいます。「手術までもっと待ち時間が長いと思っていた」とおっしゃる患者さんもみえます。紹介して頂いた患者さんに対しては、速やかに術前精査を行い、治療に移っています。最近では、手術まで3～4週間の待ち日数となっております。

～食道グループ最近の取り組み～

cStageIIまでの食道癌の方を対象に2011年12月より腹腔鏡補助下胃管作成術、2012年4月より胸腔鏡下食道切除術を行っています。食道癌の患者さんがいましたら、是非ご紹介いただきますようお願い致します。

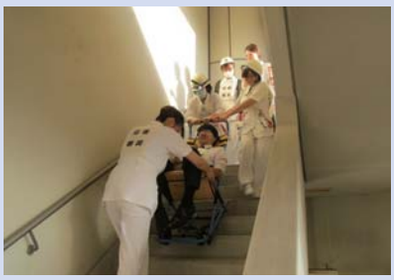
食道鏡視下手術中の写真

◆診療医の紹介　中央病院～婦人科部～

婦人科部は子宮がんや卵巣がんを中心として、子宮や卵巣など女性性器に発生する悪性腫瘍を診療しています。当科では主に手術と化学療法に携わっており、1年間に治療する患者さんの数は、子宮頚がんが約120例、子宮体がんが約50例、卵巣がんが約40例で、手術施行数は子宮頚部円錐切除術が約100例、広汎子宮全摘術60例を含めた開腹手術が約200例と、日本では有数の婦人科悪性腫瘍の専門施設です。医師は部長中西と近藤、笹本、河合の4名で、皆様のご期待に添うべく努力しております。

左から　中西透部長、近藤紳司医長、河合要介医長、笹本香織医長

総合防災訓練 ～夜間に震度６弱の大規模地震～



夜間における大規模地震の発生と、それに伴う病棟での火災発生を想定した情報伝達訓練、初期消火活動並びに避難誘導訓練を11月2日に実施しました。

今年度は、患者さんを座らせたまま階段で避難ができる階段避難車という器具も使用し、検証を行いました。

また、地震体験車により震度7の揺れを体験。いつの日かくるといわれている大地震に備え、各職員が災害に対しての防災意識を持つことが大切です。

外来診療案内

受付時間	午前8時30分～11時30分 （自動再来受付機による受付は午前8時からできます。）
休診日	土・日・祝日、年末年始
診療科	消化器内科、呼吸器内科、循環器科、血液・細胞療法科、薬物療法科、頭頸部外科、形成外科、呼吸器外科、乳腺科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、婦人科、皮膚科、眼科、放射線診断・IVR 科、放射線治療科、緩和ケア科（精神腫瘍科・リンパ浮腫外来・ペインクリニック）、専門外来（禁煙外来）
外来診療担当一覧	毎月1回、月初めに更新しています。 詳しくはホームページをご覧ください。
休診情報	お電話またはホームページでご確認ください。
ホームページ	http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/

公開講座のご案内

平成24年度 第8回

愛知県がんセンター公開講座

【申込不要】

「がんと診断されたら緩和ケア」

日　時：平成25年2月9日（土）
14:00～16:10（開場13:30）

場　所：ウインクあいち5階小ホール1
（最寄駅:名古屋駅）

問合せ：運用部管理課公開講座係
052-762-6111内2233

※再診予約制:診察券をお持ちの方は、診察予約をしてください。052-764-2911（直通）午前9時～午後5時（土･日･祝･年末年始を除く）
※セカンドオピニオン外来は、全科で対応しています。（完全予約制･自由診療）　※精神腫瘍科及び禁煙外来は、予約のみの対応です。

交通のご案内

★公共交通機関のご案内

地下鉄利用　名城線「自由ヶ丘」駅2番出口から徒歩7分

市バス利用　基幹2系統･星丘11系統「千種台中学校」下車徒歩4分

★車でのアクセスのご案内

◎一般道路

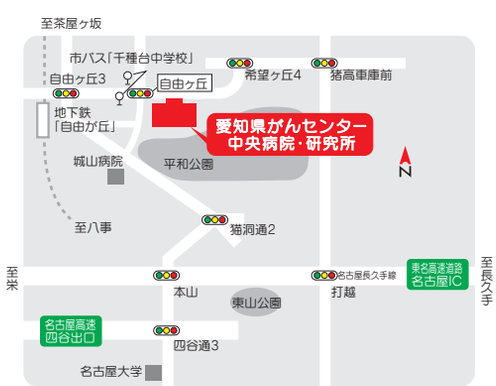
本山交差点から北へ約10分、平和公園の北西

◎高速道路

東名高速道路「名古屋IC」から西へ約15分

名古屋高速「四谷出口」から北へ約10分

※詳しくはホームページをご参照ください



愛知県がんセンター　Tel.(052)762-6111　Fax.(052)764-2963
〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1番1号　ホームページ http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/

愛知県がんセンター　検索

がんセンターNEWSは古紙配合再生紙を使用しています。